

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 6	学生支援
------	------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
602	学生への修学支援は適切に行われていますか。	①留年者および休・退学者の状況の把握し、適切に対処していますか。【※どのように】	B	B
		②補習教育に関する支援体制を構築し、補習教育を実施していますか。【※どのように】	A	
		③障がいのある学生に対する修学支援措置を実施していますか。【※どのように】	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。 ①留年者および休・退学者については、毎年実施されている学校基本調査により全学的な把握を行っている。各学部等では、学生の単位取得状況を定期的に確認しており、2013年度においても、各学部等が設定する基準に満たない取得単位僅少の学生に対して個別に指導を行い、休学や退学を願い出た学生に対しては、面談を通じて、そう考えるに至った経緯や理由を確認している。しかしながら、退学を防止するための退学理由の把握方法や対処方法は学部により異なるため、その改善方策を検討する必要がある。 ②補習教育については、専願制推薦入学試験（指定校・課外活動・関係校・伝道者等）の合格者を対象とした入学準備サポートプログラムを2012年度に引き続き2013年度でも実施し、学修意欲の涵養等を目的とするスクーリング形式の全学版、学習の継続性を目的に学習教材等を通じて自主学習に取り組む学部版の2つのプログラムを実施した。 また、補習教育の一環として、社会学部を除く全ての学部でオフィスアワーを導入して対応している。 ③障がい学生に対する修学支援については、障がいのある学生の把握を行い、支援を希望する学生に対して、一人ひとりのニーズに対応した支援（点訳・ノートテイク等）を実施した。また、支援の対象・範囲、障がいのある学生に対する修学支援措置については、「障がい学生支援委員会」で確認を行っている。しかし、支援する各部署間の情報共有や連携が効果的には行えておらず、一貫性のある組織的な対応が必要であるとの指摘が「包括的な学生支援体制検討委員会」の答申に示されており、今後、検討する必要がある。
[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 (自ら「改善すべき点」と掲げた事項) ・関西主要8大学の中で本学は最も退学率が高いという問題もあり、退学状況を分析した結果、各学部窓口での退学理由の把握方法にバラつきがあることが判明した。問題解決にあたり、退学理由をきめ細かく把握することから、大学全体の視点で、留年者・休学希望者・退学希望者への対処の改善を行う。 (評価結果) ・退学率が他大学と比較して多い状況にある点については、「改善すべき点とその改善方策」を推進し、ネガティブな退学者を減少させる方策を検討していただきたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・退学者について、各学部における退学理由の把握方法や対処方法が学部によって異なっていることから、全学的に共通の方法で取り組めるように改善を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
602	2013 年度 龍谷大学が行う障がいのある学生への支援について

II. 評価結果

総評
留年者および休・退学者の防止策として各学部で行われている単位僅少者に対する個別指導の成果（結果）が根拠資料にないため、その効果について評価できない。 また、補習教育に入学準備サポートプログラムを入れていることについては、評価項目、点検項目の趣旨や、入学準備サポートプログラムの趣旨に照らして、全学的外れである。ここには、例えば、「再履科目」も正課における一種の科目区分と考えられるので、設置の方針や考え方を求められた場合のためにも、「仏教の思想」（水4）など「再履科目」の設置状況や設置されるに至った経緯などを記入する必要がある。 また、前回は改善すべき点として関西8大学の中でも最も高いと言われる退学率について大学全体の視点で対処し改善を行うと記載されていた。各学部における退学理由の把握方法や対処方法が学部によって異なっている点を是正し、全学的に共通の観点・方法で退学者減少に向けて取り組めるように改善を行う必要がある。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・各学部における退学理由の把握方法や対処方法が学部によって異なっている点を是正し、全学的に共通の観点・方法で、退学者減少に向けて取り組めるように改善を行う必要がある。【努力課題】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

IV. 全学的課題事項

2011 年度	■シート番号 601 全学的な修学支援の方針を定めることが必要である。また、各学部の方針を集約し、齟齬がないか検証する仕組みも必要と思われる。【努力課題】 （補足）学生支援の方針については、今後、認証評価受審の際に、方針に照らしての自己点検・評価を進める必要があることから、各組織における方針を確認し、明確化されていない場合は策定をする必要がある。
---------	---